

【下関市総合教育会議議事録】

平成28年度第2回下関市総合教育会議

開催日時	平成28年10月14日(金) 15:30～:17:00
開催場所	下関市役所新館 5階大会議室
出席委員の氏名	中尾 友昭(市長) 波佐間 清(教育長) 林 俊作(教育長職務代理者) 吉井 克也(教育委員) 藤井 悦子(教育委員) 松田 まさ子(教育委員)
欠席委員の氏名	欠席なし
関係者の氏名	下関市立川中西小学校校長 伊藤 豊 下関市立川中西小学校学校司書 堀川 洋子 下関市立長府中学校教頭 足立 直之 下関市立長府中学校学校司書 乾 聡美
委員、関係者及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名	総合政策部長 森本 裕之 まちづくり推進部長 川上 勝 まちづくり推進部次長 立野 謙一 まちづくり支援課長 阿部 恒信 観光交流部長 吉川 英俊 観光交流部次長 香川 俊明 教育部長 石津 幸紀生 教育部次長 伊藤 信彦 教育部次長 森永 亮 教育政策課長 三好 洋一 学校教育課長 井上 成人 教育研修課長 岡田 達生 山口CSコンダクター 白岡 勝典 学校支援課長 宇都宮 義弘 図書館政策課長 高森 俊明 美術館副館長 中村 美幸 歴史博物館長 町田 一仁 教育政策課主幹 光吉 計志 教育政策課主査 岡本 誠也 教育政策課主任 松富 潤
傍聴人の数	1人

次第（目次）

【開会の宣告】	P 3
【市長挨拶】	P 3
【教育長挨拶】	P 3
【協議・調整事項】	
(1) 学校図書館の活性化について	P 4
(2) 歴史博物館と観光行政との連携について	P 13
(3) 住民自治によるまちづくりの促進について ～まちづくり協議会とコミュニティ・スクールとの連携について～	P 16
【その他】	P 19
【閉会の宣告】	P 20

【開会の宣告】

石津幸紀生（教育部長）

ただいまから、平成28年度第2回下関市総合教育会議を開催いたします。
はじめに、総合教育会議の主催者である中尾市長に開会のご挨拶をお願い申し上げます。

【市長挨拶】

中尾友昭（市長）

皆さんこんにちは。市長の中尾でございます。本日は、今年度2回目の下関市総合教育会議でございます。委員の皆様におかれましては、大変ご多忙の中、お集まりいただきました。いつもありがとうございます。

本日の総合教育会議では、まず「学校図書館の活性化について」協議・調整を行います。学校司書の方がいらっしゃる小・中学校から関係の皆様にお集まりいただき、ご出席いただいた皆様と意見交換を行うことで、より一層、学校図書館の活性化に活かしていきたいと考えております。2番目に、いよいよ11月18日に開館いたします「歴史博物館と観光行政との連携について」、そして3番目に「住民自治によるまちづくりの促進について」協議・調整を行ってまいります。いずれの内容も、市長部局と教育委員会とが連携して進めていかなければならない大変重要な事項でございます。しっかりと議論ができればと考えております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

石津幸紀生（教育部長）

続きまして、教育委員会を代表して、波佐間教育長にご挨拶をお願いいたします。

【教育長挨拶】

波佐間清（教育長）

皆さんこんにちは。教育委員会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

本日は、第2回目の総合教育会議が開催をされるところでありますが、まず報告をしたいと思っております。

先日、10月9日日曜日ですが、東京NHKホールにおきまして、下関市立勝山小学校が、全国学校音楽コンクールにおきまして、銅賞、全国第3位に輝きました。私も当日会場に駆けつけまして、子供たちと共にこの受賞の喜びを共にしたところであります。地域の皆さん、学校の保護者、そしてもちろん子供たちが一生懸命に夏休み、汗水たらして合唱の練習に取り組んだ成果が全国3位ということになりました。大変私達も喜んでいるところであります。皆様に最初にこのことをご報告して、一緒に喜びたいと思っております。

さて、本日の協議・調整事項ではありますが、先ほど、市長からもありましたとおり「学校図書館の活性化」、「歴史博物館と観光行政」、「住民自治によるまちづくりの促進」と、大きく3つの議題があるわけですが、教育委員会にとりましても、この議題は大変重要な教育課題であると考えているところです。教育委員会といたしましても、これからの教育課題の一つひとつを協議・調整しながら、中尾市長と教育委員会とが連携をして、教育行政の推進を図ってまいりたいと考えているところです。どうか、中尾市長におかれましては、本市の教育の発展に今後とも格別なご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日の私の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

石津幸紀生(教育部長)

本日は、協議・調整事項(1)「学校図書館の活性化について」に関連して、学校司書を配置しております小・中学校から、関係の先生方にご出席をいただいております。

ご承知のとおり、平成27年度より学校司書を5人配置しておりますが、大変大きな成果を上げているところでございます。これまでの学校現場における取組や成果になどにつきまして、本

日ご報告をいただくことを予定しております。それではご出席の皆様、自己紹介をお願いいたします。

伊藤豊(川中西小学校長)

川中西小学校の校長の伊藤と申します。今日はよろしく願いいたします。

(お願いします)

堀川洋子(川中西小学校学校司書)

川中西小学校の学校司書をしております堀川と申します。よろしく願いいたします。

(お願いします)

足立直之(長府中学校教頭)

長府中学校の教頭の足立と申します。どうぞよろしく願いします。

(お願いします)

乾聡美(長府中学校学校司書)

長府中学校の学校司書をしております乾と申します。よろしく願いいたします。

(お願いします)

石津幸紀生(教育部長)

それでは、協議・調整事項に入りたいと思います。これより、議事の進行につきましては中尾市長をお願いいたします。よろしく願いいたします。

【協議・調整事項】

学校図書館の活性化について

中尾友昭(市長)

それではよろしく願いします。まず、「学校図書館の活性化について」からの協議でございます。学校図書館の活性化をということで、平成27年度から5人の学校司書が、小・中学校に配置されました。その取組、また成果等の報告を事務局からお願いをいたします。

岡田達生(教育研修課長)

教育研修課でございます。よろしく願いいたします。それでは、お手元にカラー印刷のA4判1枚、「学校図書館の充実と学校司書について」をご覧になってください。

学校図書館とは簡単に申し上げますと、読書好きな子供を増やし、また、確かな学力や豊かな人間性を育むための施設です。学校図書館法によりまして、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童または生徒の健全な教養を育成することを目的に、その設置が義務付けられております。

学校図書館はそこにあります3つの役割を担っております。1つ目の役割は読書センター機能です。児童生徒の発達段階にあった多様な蔵書を揃え、読書活動の拠点となることです。2つ目の役割は学習センター機能です。学校の授業で役立つ資料を揃えるなど、学習支援を行うこととなります。3つ目の役割は情報センター機能です。これからの社会を生き抜いていくための能力の1つとして、様々な情報を集め、それを活用する力を育む役割を担っております。

また、学校図書館法の規定によりまして、各学校12学級以上の学校には司書教諭という学校図書館の専門職務を司る教員を配置することが義務付けられており、本市におきましても12学

級以上の学校については100%の配置を行っており、それぞれの学校図書館の活動の充実を目指しているところであります。

次に、学校司書についてご説明いたします。学校司書とは、学校図書館で書籍や資料の管理や貸し出し業務、教科指導の支援、学校図書館運営の補助を行うものであります。平成26年に学校図書館法が改正され、学校には司書教諭に加え、学校司書を置くよう努めなければならないと明記されました。下関市でも平成27年度から、市内の5つの小・中学校に学校司書を配置し、大きな成果を上げております。1番の成果は貸し出し冊数の増加であります。昨年度、学校司書を配置した5校の合計貸し出し数は、平成26年度が20,007冊、平成27年度は30,999冊と、1年間で貸し出し数が55%増加しております。本年度の配置校におきましても、貸し出し数が増加するとともに、図書館内でテーマ展示を行ったり、授業の内容に合わせた本を紹介したりするなど、図書館の環境が整備されております。そのほかにも、夏季休業中の学校図書館の開館、図書ボランティアとの連携、学校司書を通じた図書ボランティア同士の交流、また図書イベントの開催、あわせて本年度より市内全小・中学校において購読することとした新聞の積極的な活用など、子供たちの読書活動を支える活動が活性化しております。これらの取組を広げるために、今年度は1人の学校司書が同じ中学校区内で2から3校の小・中学校を兼務して行っております。このことで、同じ地域の児童生徒たちの読書環境が整うようになりました。以上申しましたとおり、学校司書を配置することによりまして、学校図書館活動、児童生徒の読書活動を支える取組が大変充実しているということが出来ます。

中尾友昭(市長)

成果がずいぶん上がっているという報告がございました。ただいま担当部局から説明ありましたが、教育委員の皆さんから何かご意見、ご質問等ありましたらお願いをいたします。

藤井悦子(教育委員)

学校司書と司書教諭の違いを、もう少し詳しく教えていただけませんか。

岡田達生(教育研修課長)

司書教諭は先ほど申しました読書教育の専門家として、学校図書館法によって12学級以上ある学校に配置が義務付けられております。教員であります。教員免許を取得したうえで、講習等を受けて資格を取る必要があります。

それに対しまして、学校司書は、学校図書館で図書業務に携わる人の総称でありまして、学校司書という資格があるわけではございません。本市におきましては、学校司書を採用するにあたって、司書教諭もしくは司書の資格を有するものとしております。

業務の内容は本の貸し出し、返却等は一緒であります。司書教諭は読書指導や図書館指導等の指導を計画性をもって教育課程の中で行います。それに対しまして、学校司書は司書教諭の学校図書館運営の補助として、専門性をもって日常の図書館業務を中心に行います。学校司書が配置されることで、貸し出し数、開館時間の増加等々、図書ボランティアとの連携等スムーズに行われているところです。

松田まさ子(教育委員)

今年度より複数校兼務ということで取り組まれているようですが、それについての成果と課題を教えてください。

岡田達生(教育研修課長)

兼務としたことの成果といたしましては、同じ中学校区内で読書環境が整うということがまず挙げられます。また、学校司書を介しまして、学校と図書ボランティアとの連携、それから図書ボランティア同士の連携が取られるようになったことも挙げられます。

一方、課題といたしましては、学校を兼務しております関係で、それぞれの学校で教職員との連絡調整の時間が不足したり、授業における支援などが十分に行えなかったりすることがござい

ます。

中尾友昭(市長)

それでは、これまでの取組や成果について報告をお願いしたいと思います。まずは川中西小学校からお願いいたします。

伊藤豊(川中西小学校校長)

まず数値に表れた成果についてご説明したいと思います。授業がある日の学校図書館の利用者ですが、統計を取りはじめた本年度9月末までの利用者は2,836人となります。月平均しますと567人が利用していることとなります。本の貸し出し冊数です。学校司書が配置される前の年度は2,376冊でした。月平均は198冊です。それが、学校司書が配置された平成27年度は8,753冊で、夏休みを含めた月平均貸し出し冊数は729冊と、単純に毎月531冊増加しました。本年度は9月末までで3,236冊貸し出しておまして、月平均は539冊です。これは学校司書が配置されたことによって、毎日図書館が開いている、行けば相談できる先生がいるということが1番大きいと考えています。加えて学校司書が配置されたことにより、これまで活動を続けていた保護者を中心とした図書ボランティアと学校司書が連携・協働することによって、図書ボランティアの活動に勢いがついた、心に火を灯した状態ではないかと考えています。この辺は学校司書の堀川からご説明いたします。

堀川洋子(川中西小学校学校司書)

私の主たる業務は司書教諭と連携しながら、学校図書館の運営全般を行っています。具体的には書架の整理や新刊の受け入れ、そして授業支援です。とりわけ授業支援については、図書館利用に関する指導のほか、調べ学習に必要な書籍の団体貸し出し、学習内容を見越した関連図書の展示等に力を入れています。また、心の癒しを求めて図書館を訪れる子供の話し相手になることもあります。

しかし、学校司書1人では思い描いたように読書サービスを充実させることがなかなか難しい状況です。そこのお手伝いを図書ボランティアをお願いしています。現在、本校には11人の図書ボランティアがいます。皆さん保護者です。そのほかにも毎週金曜日に読み聞かせをお手伝いいただいている正規の方が2人いらっしゃいます。図書ボランティアと共に行った主な活動は、各校舎、廊下にある学年の本棚の整理や飾りつけ、本校のチャレンジ目標である年間読書〇〇冊を意欲づける読書のしおりや達成カード、達成掲示板等の作成があります。

お手元のしおりが本年度のものです。児童は30冊読み終わると校長のもとに出かけ、校長からご褒美シールをもらいます。昨年度の個人最多読書数は、1,000冊を超えました。昨年度、30冊をクリアした児童は102人でした。本年度は9月末ですすでに101人と読書ペースが速くなっています。

また、夏休みなどの長期休業中に学校図書館を開館しています。昨年度は夏休みに19日間開館し、延べ829人の利用がありました。本年度も同じく19日間開館し、延べ831人の利用でした。子供たちにとっては自分の学校ですから歩いて行けます。1年生の児童でも1人で歩いてきます。開館中には6回から7回ほどイベントを行っています。私の方からアイデアも出し、空き箱等の廃品を利用した工作教室や、講師を招いた手話教室を開く等、子供たちの文化教室のような取組を行っています。大変な人気で、あるイベントには120人ももの参加がありました。

学校司書という専門的な立場から図書ボランティアとお話を進めていくうちに、ボランティアの中には学校司書という資格や、教員免許の取得について興味を持って学ぶ方が出てきており、図書ボランティア活動を通して、自分にも夢が広がったと感謝の言葉をいただいたのが印象に残っています。

中尾友昭(市長)

どうもありがとうございます。色々効果が上がったみたいで本当によろしく申し上げます。それでは続きまして、長府中学校からお願いいたします。

足立直之(長府中学校教頭)

先ほどから市教委、そして川中西小学校からもありましたが、司書教諭から学校司書による図書室運営に変わったというところが、まず1番の成果だろうと思っております。これまでのことをいうと大変恥ずかしいのですが、司書教諭による図書室運営というのは、担任があるというようなどころもありまして、どうしてもそちらの方が優先になってしまうということが非常に多くありました。そこへ学校司書が就いたということは、常にそこに本の専門家がいる、そして図書室を管理してくれる人がいるというところで非常に学校としてもありがたく思っております。さらに言いますと、そこに図書の専門家というだけではなく、子供たちの様子、要は生徒指導も含めて、子供たちの様子までも学校司書の方が把握してくださるということは、非常にありがたいことだと思っております。

それからもう1つは、隣におります乾学校司書だからできる図書室運営というのがあろうかと思えます。大きくいいますと4つほどあります。まずは、やはり本が好きな人であるということ。これは子供たちにとって非常にありがたい存在です。何よりも本に対して熱い思いを持っている。これを子供たちに伝えてくださっているということが、子供たちにやはり多様な本に理解があるということであったり、価値のある本というのはどういうものかというのを伝えてくださったり、非常にありがたいと思っております。2つ目がプレゼン力と言いますか、本の見せ方です。市教委から示された写真等があるかと思いますが、本校の図書室、以前はカーテンが閉まっておりました。カーテンが閉まるのは何故かと言いますと、本が焼けてしまうからです。ですが、学校司書がいらっしゃるということで、こまめにカーテンを開けたりしながら、明るい雰囲気のある図書室を作ってください。それは本を見せるためです。そういったところで非常にありがたいと思っております。3つ目が授業に時々入ってくださって、今どのような学習をしているかということをごまめに観察していただいています。そのことが学校にある図書を、さらに、「こんな授業をやっていましたね、こんな本もありますよ」というところで子供たちに興味付けをしてくださっているというところなんです。最後に地域へのアピールということで、図書室の利用をやはり地域の人にもどんどん開いていこうという活動もしてくれております。

いずれにしても、図書室を利用しやすくなった、要は本のことを聞いたら答えてくれる方がいる、そして、生徒にとって必要な資料や情報がやはりそこにある、生徒にとって非常に本が身近になっているというところが成果であろうと思えます。

乾聡美(長府中学校学校司書)

取組の具体的な方法としては、図書館の環境整備、それから授業との関連付けがなされた企画、それから地域力の活用、また、生徒からの質問・要望に応えることなどがあります。読書推進のための企画としては、具体的には明後日行われる文化祭におけるブックバトルや、ブックトークを含むミニコンサート等をやってきました。

取組と一言でいっても、図書館における作業は無限にありますので、自分の中に軸を持っていないとやっていけないわけですが、そのためにキーワードとなる3つの言葉を、私は昨年の春から持って仕事をしております。それは、循環すること、そして連動すること、それから継続することです。基本的には生徒500人に対して声高に何かを言うというわけではなく、一人ひとりと向き合うことの積み重ねが大きな波になると信じております。中学生というのは興味・関心が多様化してくる時期ですので、一人ひとり相手の言葉をよく聞いて、理解して、会話や声掛けなどを少しずつやっていって、今年に入ってかなり実を結んできたという実感があります。それはその子が借りていく本でわかります。

成果としては、生徒の興味の範囲を自然に広げること、それから楽しみながら学べる空間ということなのですが、学校図書館は癒しの空間でありますけれども、楽しいだけではなく、学習に寄与するということを重点に置いております。このような、本を通じて生徒と向き合う作業は、自分の経験が活かせるところが非常に魅力的であります。それ以上に、出会う人すべて、つまり先生、生徒、保護者、地域の人から新しいことを日々学べる、それをすぐに仕事に活かすことができるというのが1番の魅力であります。本というものの本質的な魅力を理解しはじめる世代、

それが中学生です。その中学生と本を通じてコミュニケーションができるということがまさに日々の仕事の糧となっております。

中尾友昭(市長)

ただ今、各学校から報告がありました。それではご意見、ご質問等ありましたらお願いいたします。では吉井委員。

吉井克也(教育委員)

今、両校からの報告を聞いておまして、本当に学校司書の役割の大きさと、素晴らしい成果が上がっているということが大変良くわかりました。

長府中学校のお話の中で、今後は地域に向けて開いていくというお話がありましたが、今下関市ではコミュニティ・スクールの取組をやっておりますが、そういう視点に立っても学校図書館を地域に開いていくということはものすごく大事なことだと思います。保護者が読書が好きなら自然に子供は読書が好きになる、地域の大人が好きになれば地域の子供たちは皆読書が好きになると言っても過言ではないかもしれません。口で言うのは簡単ですが、色々大きな課題もあるのだらうと思います。実際推進するにあたってどんな課題があるのかということをお教えいただければと思います。

中尾友昭(市長)

よろしいですか。伊藤校長。

伊藤豊(川中西小学校長)

地域に開くというか、地域と連携した学校づくりというのは、本校でも大きな課題というか夢でございます。

本校は学校図書館を一つの起爆剤にしたいと考えています。先ほどご説明しました長期休業中の図書館開放ですが、保護者同伴であれば未就学児を連れて利用しても良いことにしています。これは、上に小学生がいて、下にまだ小さい子供がいるような場合も開放しているということですが、せっきくの児童書ですから、本校児童だけではなく、より多くの子供たちや保護者に利用してほしいと思っています。地域にある学校図書館というのは、誤解を招いたら申し訳ないのですが、下関市立の図書館に比べて気兼ねが少ないのではないかなと考えています。先ほど堀川も申しましたけれども、歩いて行ける距離にあります。ですから、これから学校図書館にはそういった可能性が非常にあるなと思っています。

課題は、実際に開放していくためには具体的にはどうしたらいいか、例えば地域の未就学児を抱えるお母さん方にどうやって知らせていこうとか、そういった事についてまた工夫していきたいなと思っています。

吉井克也(教育委員)

色々課題はあるけれども地域にしっかり開いていこうということで、私達教育委員もそのことについてももしっかり勉強しながらお手伝いできることがあればしていきたいと思っています。

それともう1点。読書の大事さということですが、今年度の全国学力・学習状況調査の結果分析等を色々教育委員会でも協議したわけでありまして、国語科においては、下関の子供たちは長文の読解力に弱いと。山口県の子供たちも同じであったと思いますが、これはやはり平素の読書活動に非常に大きくつながっているのではないかなという思いがしております。おそらく、学校司書の配置された学校においては、これから子供たちが間違いなくそういった点での力もつけていこうと思っています。この点でも私達教育委員も大いに応援をしていきたいと思っています。

波佐間清(教育長)

今、地域開放のところで、我々教育委員会の責任でもあるのですが、例えば夏休みに図書館を

地域に開放する、子供たちにも開放する、川中西小学校はその辺を実践されたのではないかなと思います。真夏の暑いときに図書館で本を読むというのはクーラーがないとなかなか難しく、今後は学校図書館の空調を考えていかないといけないのかなと思うのですが、今年と去年実践されていますが、その辺の状況を教えていただけますか。

伊藤豊(川中西小学校長)

夏休みの19日間の利用者数については先ほどお話したとおりです。今暑いという話が出ましたが、気温の統計はとっております。今年の夏は特に暑かったのでやはり図書館も暑かったです。窓を開けたりするといいますが、おそらく中学校も一緒ではないかと思いますが、やはり紙類ですから風が吹き抜けると倒れたり飛んだりということもあります。それでも少し窓を開けて、扇風機を4台設置して、できるだけ部屋の真ん中の方に集まって、直接日光が当たらないようにしていますが、午前10時の平均気温は30.2℃、14時になりますと33.9℃、16時も35.1℃で、これは本年度の温度でした。昨年度に比べてそれぞれ1.5℃から2℃高くなっています。これは、子供たちの利用もあって、熱気もあふれている証拠でもあろうかとは思っています。

足立直之(長府中学校教頭)

中学校の地域開放につきましては、隣にいる乾が、今年から小学校に入りだしたということで、まずは小学校の方がやはり地域開放が非常に盛んであります。中学校はやはり夏休みも部活動がありまして利用する生徒がなかなかいないというところもあります。

ただ、小学校でのつながりというものをしっかり作っておりますので、これから中学校の方にも、先ほど言いましたコンサートを交えた、あるいは会議の場所としても乾の方が積極的に活用して、まずは図書室を見てもらおう、知ってもらおうというところから今始めております。そういう意味では少しずつではありますが、努めてまいりたいと思っております。

林俊作(教育長職務代理者)

今、色々と学校司書の方がアイデアを出したりしながら図書に子供たちが馴染むような貢献をしていらっしゃるということは凄くよくわかりました。先生達も色々と研修を受けられると思いますが、学校司書の方々の資質向上として何か取り込まれているのでしょうか。

岡田達生(教育研修課長)

資質向上の研修の取組といたしましては、県立図書館主催の研修、それから図書館政策課主催の研修、それと司書教諭の研修との合同開催も含めて年間6回研修を計画しております。

藤井悦子(教育委員)

実際に現場で携わっている学校司書として、何か中尾市長や教育委員会に対して要望や理解してもらいたいことはありませんか。

中尾友昭(市長)

忌憚のない意見を。1番最前線で頑張っているのだから。

堀川洋子(川中西小学校学校司書)

本年度から週5回のうち2日間ほど兼務校である垢田小学校の学校図書館充実のために勤務を始めました。でも、2日間ではなかなか思うように仕事を進められないという悩みがあります。とはいっても、垢田小学校の図書ボランティアの力をお借りして、同じく垢田中学校に進学する子供たちの読書環境に差が生じないように努力しているところです。垢田小学校の図書ボランティアに川中西小学校の取組を紹介したところ、双方の図書ボランティアの連携が始まってきました。長期休業中の図書館イベントにもお互いが手伝いに行き、ノウハウを各自の学校図書館の充実に活かすといった取組です。これは今後も日を重ねるごとに内容も深まってくると期待しています。学校司書は双方の学校をつなぐ役割も果たすことができると、今手応えを感じているとこ

ろです。

ただし、一つの学校図書館を充実させるためには、やはり時間が必要です。司書教諭の先生は図書館業務以外に学級担任であるとか、他の校務分掌もたくさん抱えていらっしゃると思います。学校司書だからこそ図書館業務に専念できると考えています。できれば、兼務ではなく専任にさせていただけたら、もっと力を存分に発揮できるのではないかと考えております。

中尾友昭(市長)

乾さん、どうですか。

乾聡美(長府中学校学校司書)

堀川さんが述べたことと似ているのですが、まず課題として、図書館が授業活用の推進に関して第一歩を踏み出したところで、その先がなかなか進まないという問題があります。学校としての全体の理解を進めるために、色々なアイデアをいただけたらいいかなと思います。

それともう1つ。複数校兼務による課題がここに大きく横たわっております。具体的には、同じ学年で授業に差がでるといことです。5クラス、6クラス抱えている学校ですので、中学校は特に教科で同じ学年6クラス持っておりまして、司書がいる授業、いない授業が出てしまうというのは、図書館活用授業を推進しづらいということになります。生徒にとっては、本当は大規模中学校は、特に専属の司書が図書館活動を推進するのが理想だと私は思っておりますが、私自身は兼務によって非常に学ぶところが多くて、小・中連携が強化されることと、あと6年生の一人ひとりの性格がわかりまして、読書傾向を来年度の選書に活かせるかなと考えております。児童一人ひとりが逆に感動するとか、そういう小1から中3までの成長を俯瞰して見ることができ、非常に勉強になっておりますが、やはり複数校兼務の課題というものは考えていかなければならないかもしれません。

松田まさ子(教育委員)

お話を伺って、想像以上の効果が出ていることに本当にびっくりしております。保護者である図書ボランティアの方を巻き込んで、連携して、色々な取組で生徒さん達の貸し出し数を増やしたり、色々な取組の中で各生徒さんの把握というか、借りていっている本が変わっていったことで、その子の成長を見ていることも、本当にきめ細やかで感動しました。本当に私の子供が行っている学校でも、そういう学校司書がいらしたらと思ってお話を聞きました。

お聞きしたいのですが、3年ごとの取組ということで、平成30年度以降はどのような取組をまた予定されているか教えてください。

岡田達生(教育研修課長)

平成30年度からの配置計画ですが、3年サイクルを予定しております。様々な中学校で学校図書館の充実が図られるように、配置中学校区については、ローテーションしていくという形で進めていこうと検討しているところでございます。

林俊作(教育長職務代理者)

今の話は、人数は増やさずに、ローテーションでやろうということによろしいですか。

岡田達生(教育研修課長)

現在のところは。

林俊作(教育長職務代理者)

現在のところはそういうことですね。下関市で5人といったらちょっと少ないかなという感じがしないでもないですが。学校司書の配置状況というのは、県内他市はどのような状況なのか、もしわかれば教えてください。

岡田達生(教育研修課長)

県内他市町において、学校図書館業務を行う職員の名称は様々であります。平成28年4月の段階で19の市町で配置されています。ちなみに配置人数の多い市を紹介させていただきたいと思いますが、宇部市が25人、周南市が25人、山口市が24人、山陽小野田が17人、岩国市は14人と、他市ではこれくらいの配置がされているところでございます。

林俊作(教育長職務代理者)

学校司書や図書館の専門職がそれくらい配置されているということですか。やはり5人というのは少ないかもしれません。人口の規模からしたら2ケタくらいいてもおかしくないかなという感じもしました。できる範囲でよろしく願いいたします。

中尾友昭(市長)

これは下関市の教育の予算の中でのバランスがあります。下関市ではコミュニティ・スクールにも力を入れています。他市がそれだけいるから下関市もいるといえ、下関市が行っている政策の中でまたカットしなくちゃいけないことになります。全体の財源バランスの中で予算は増えませんので、むしろ減りますので、やはり知恵を出してこれを乗り切る以外にはありません。

これは今日の3番目の協議事項の中にもありますけれども、地域住民の参加や図書ボランティアの育成、これを活用して、もっと効果を上げられないかという話があります。まちづくり推進部お願いします。

川上勝(まちづくり推進部長)

それでは私の方からお話しさせていただきます。現在、各地区のまちづくり協議会において、地区内の学校と連携をしているところもありますので、連携ということは大切なことであると考えております。

少し、固い説明になりますけれども、下関市住民自治によるまちづくりの推進に関する条例におきましても、このように明記しております。住民自治によるまちづくりとは、「市民等が合意に基づき、地区における共通の課題の解決や地域活性化を目的として行う活動である。」としております。そして、さらに条例第6条には協議会の役割として、「地区の身近な課題の解決、または地域活性化の方策を取り組む。」ということとし、さらに条例施行規則におきましては、具体的な活動範囲として地区の子育て支援を掲げているところですので、協議会と学校が連携した活動の実施が期待されるものと思っております。

中尾友昭(市長)

今説明がありましたが、まちづくり協議会との連携、それからコミュニティ・スクールとの連携ですね。今日、学校司書から話もありましたが、やはり地域の方のお手伝い、これをやはり学校の現場に入れ込むと。また、その中で学校司書から指導、アドバイス、これも出てきますので、ますます忙しくなるかもわかりませんが、幅広く全市的に広げるためには、またご尽力いただきたいと思っております。

それから、ハード面の充実です。学校図書館の活性化ですが、冷房も含めて、学校支援課お願いします。

宇都宮義弘(学校支援課長)

学校支援課でございます。お手元の資料の右側にありますが、学校支援課という資料をご覧ください。学校図書館の活性化について、先ほどからお話がありました、学校司書、司書教諭の配置等の人的整備に対しまして、物的整備の観点から現状と今後についてご報告いたします。

まず、整備に関しましては、文科省が学校図書館図書整備計画の中で、24年度から第4次学校図書館図書整備5か年計画というものがございます。その5か年計画の大きな柱に学校図書館図書標準の達成、学校図書館への新聞の配備、学校図書館データベース、その3本の重要施策を謳っております。

その重要施策についてご報告いたします。まず、学校図書館図書標準の達成についてでございます。下にも青書きで表示していますが、学校図書標準というのは、文科省が学校図書の充実を図る際に目標となる蔵書数を定めたものでございます。本市の学校図書の達成状況でございますが、お手元の資料は平成27年12月に発表した平成26年度の学校図書館の状況に関する調査報告に基づいてご説明いたします。まず、全国平均が60.3%に対し、本市市内52校のうち達成は10校で、その達成率は19.2%でございます。中学校につきましては、全国平均50.0%に対し、市内22校中3校が達成しておりますので13.9%となっております。27年度の蔵書数からの実績で申しますと、市内小学校全体で図書標準が371,960冊に対し、蔵書数が335,259冊、書籍に関しては達成率90.1%。市内の中学校に至っては、図書標準が223,920冊に対し、蔵書数が182,686冊と、その達成率は81.6%となっております。ただ、100%達成校でいいますと、27年度は小学校12校、中学校は変わらず3校です。若干の改善にはなっていますが、なかなか図書の増冊となるとPTAの購入の他に、卒業生の方の寄付等がございます。それに加えて、今年度は特に小学校の図書室と公民館に、児童図書の購入資金として7,256,000円の遺言による寄付がございました。

有効に使わせていただき、大変感謝しているところでございますが、今申しましたように、購入による蔵書が増える一方で、在庫としての廃棄処分が増加する傾向にもございます。このような中で、備品購入という予算の枠の中で購入する教材が年々多様化し、学校図書以外の教材も購入しなければならないという学校サイドの状況もありますので、なかなか達成に至っていないところが理由でございます。ただ、達成率の低い学校については個々に訪問しまして、予算の配分とか、蔵書の状況を検討しながら達成率をあげていこうと考えておるところでございます。

2つ目の施策が小・中学校図書館用の新聞の配備でございます。新学習指導要綱にも新聞を教材として活用するNIE教育は、読解力の向上、情報活用能力の育成、コミュニケーション能力の育成など、効果が大きく期待されるところで、今年度より教育長の政策提起された枠によって、小・中学校に各1紙ずつ購入をしているところでございます。新聞につきましては、小学校は小学生新聞、中学校は地元の記事が多く掲載されている地方紙をひとつの目安として学校にあったものを学校サイドで選んでいるところでございます。また、全国平均でいうと複数紙が多いところがございますので、今後は1紙ではなくて複数紙の整備を考えているところでございます。

3つ目、学校図書の蔵書のデータベース化でございます。当教育委員会学校支援課では、23年度から各学校共通のデータベースを全校に導入しております。5年ごとに更新をしているわけですが、すでに図書館にはインターネット環境が整備していますので、今後の施策とすれば、校内のみならず学校間のネットワークと、将来的には一般公共図書館へのネットワークの構築も目指したいと考えているところでございます。

最後に、先ほど教育長からもお話ありました、学校図書室の環境整備でございます。最近、地球温暖化が原因で気温上昇が顕著になる中で、特にこの7月、8月は大変な猛暑でございました。ただ、8月の夏休み期間中は子供たちは休みになりますので、急ぎに整備可能な扇風機を普通教室、特別支援教室等には今年度より整備しているところでございます。ただ、扇風機はご承知のように、室内の空気を循環して体感温度を下げるだけで、部屋の温度を下げるわけではございません。抜本的な対策にはなっていないと考えております。

そのような中、小学校長会からも各学校の図書室にエアコンさえあれば8月の夏休みなど長期休業中に学校の図書館を地域住民に開放できます。しいては市内の図書館から遠く離れた学校も多く、学校図書館を地域に開放すれば地域全体の読書力の向上、ボランティアによる読み聞かせ等のサービスの提供、地域のまちづくりの一役を担うのではないかとという提案もいただいているところでございます。

地域開放される図書館の環境整備については、空調は喫緊の課題、優先すべき考えと認識するところでございます。ただ、空調機を整備するのにも莫大な費用がかかりますので、最終的には国の政策も注視しながら進めていきたいと考えているところでございます。

中尾友昭(市長)

今、ハード整備について説明がありました。時間の関係もありますので、教育長から。

波佐間清(教育長)

せっかく今、お手元にこれをいただきました。これの活用なり何かあったら教えてください。

伊藤豊(川中西小学校長)

子供たちは各学級担任から紙をもらって、とにかく読んだ本を記録していきます。それが30冊に達する、これは私が赴任する前から年間読書30冊というふうに行われていましたので、30冊というのを一つの区切りにして、30冊たまと校長室に報告に来ます。1年生が休み時間に校長室の前に列を作って待っておりまして、私の方もご褒美ということで、市内のあらゆるファンシーショップで色々なシールを買い込みまして、好きなシールを取っていいよということで取ります。で、子供たちは自分のカードに貼ります。そして今度は図書ボランティアさんが作ってくれたカード、これはお手元の教育研修課の読書の木という写真がありますが、そこに写っている葉っぱや花びらに、実は子供たちが達成した本の冊数と自分の名前が書いてあります。これを図書室前の木と動物たちがいる、最初はこの木は裸でしたが、だんだん葉が増え花が増え、最近は実のバージョンのカードになっていますが、どんどん木が増えていく。本を読めば読むほど、自分達の学校図書館の入口のこの読書の木が実りをつけていくという、そんな取組になっています。

ただ、残念ながらまだ高学年まで輪が広がっていません。統計を取りますと、小学1・2・3年生が中心となっていますので、1つの大きなきっかけです。先ほど、吉井委員からも読解力ということを言われましたが、まさにこの子供たちが高学年になった時には、ものすごい読解力がついているのではないかなと、夢を見て地道な活動を続けていきたいなと思っています。

中尾友昭(市長)

よろしいですか。色々今日はご意見をいただき協議させていただきました。本当にありがとうございます。担当部局の皆さんには引き続きよろしくお願ひします。

それでは、先生方はここで退席となりますが、本日は大変有益なお話をありがとうございます。これからも、子供たちの読書活動の更なる推進のために、ご活躍をいただきますようお願いいたします。本日はありがとうございます。

(ありがとうございました)

【協議・調整事項】

歴史博物館と観光行政との連携について

中尾友昭(市長)

それでは続きまして、協議・調整事項の2つ目です。「歴史博物館と観光行政との連携について」であります。いよいよ来月18日に歴史博物館が開館いたしますが、このオープニングにあたりその取組状況や予定、これらの説明をお願いします。

町田一仁(歴史博物館長)

歴史博物館の町田でございます。いよいよ新博物館の開館が近づいてまいりました。最近は何日「いつ開館するんだ」「早く開けろ」という声をたくさんいただいているところであります。現在、開館に向けて準備を行っております。本日はお手元に、まだゲラの状態でございますが、当館のリーフレットをカラーコピーでお配りさせていただいているところであります。

開館日は11月18日金曜日でありまして、10時から開館式を行ったのち、午後1時から一般公開の運びとなっています。また、翌日の11月19日土曜日と20日日曜日につきましては、歴史博物館の開館にあわせて、恒例となっております「彩りの城下町長府・秋」というキャンドルナイトが城下町長府の壇具川沿い、歴史博物館、功山寺、長府毛利邸などで開催されますので、この2日間は9時まで夜間開館いたします。キャンドルに浮かぶナイトミュージアムも大変素敵

なものだと思っておりますので、是非お越しいただければと思っております。歴史博物館の展示は、常設展示室での常設展示、並びに企画展示室での企画展示や特別展示で構成しております。

リーフレットをお開き下さい。歴史博物館の展示の中心となります常設展示のメインテーマは、「海峡に育まれた下関の歴史と文化―海峡の歴史に未来が見える―」としております。これは、海陸交通の十字路であり、歴史と文化の十字路となった海峡が、下関の歴史的な形成に大きな影響を与えており、現代下関市は海峡の賜物であることからこのテーマの設定といたしました。

具体的には、下関の古代から下関の近代までを通史的に紹介いたしております。その中で展示の中心となりますのは、やはり近世、江戸時代と幕末維新の下関でございます。近世及び幕末維新は、各項目の下に小項目を設けておまして、詳しく取り上げているところであります。またごゆっくりご覧いただければと思えます。

また、開館の企画展示は、「時代を拓く海峡―攘夷戦・下関戦争・四境戦争」というテーマで開催いたします。この3つの海峡での戦いが、時代のターニングポイントとなりまして、日本の近代を切り拓く契機となりますが、今年は海峡最後の戦いとなりました四境戦争から150周年となりますので、これらの戦いを跡付けるため開催するものであります。

常設展示は、テーマを変えることなく、数ヶ月おきに項目の入れ替え、展示資料の交換をしながら、企画展示と特別展示は1～2ヶ月おきに、下関と関わりの深い個別テーマを深く掘り下げた内容で企画・立案して実施いたします。常に常設展示と企画、若しくは特別展示の2つの展示をご覧いただけるように計画いたしております。常設展示は、市民の皆さんに何度でもご覧いただきたいものでありますが、テーマや展示項目をある程度固定しておりますので、長期的に考えれば、市外などから来られた観光客の皆さんに下関の歴史を概観していただくもの、企画及び特別展示は市民の皆さんにその都度、足を運んでいただいて、下関の歴史を深く理解していただくものというふうに位置づけております。そのため、常設展示は観覧料200円でございますが、企画展示につきましては市民の方が何度でもご利用できるよう100円としているところであります。

また、歴史博物館では、市民の皆さんの地域学習、観光客の皆さんのまち歩きなどのために、ガイダンス交流室を設けています。ここは無料ゾーンでございまして、下関の歴史、文化財、文化施設、観光に関する情報を提供いたしております。海峡の文化財を空中写真などからみるパノラマ映像、ストリートビュー的な長府のまち歩き映像、それから博物館資料及び市内各観光施設、史跡などの情報を画像や解説とあわせて簡単に検索することができる情報検索サービス、それから地域史関係の図書などを配備いたしております。

とりわけ観光に資するものとしたしましては、例えば、普段拝観することができない国宝仏殿の内部、功山寺山門の2階、長府毛利家墓所などを映像で見ることができまして、地理的・時間的に訪れることができない観光スポットにつきましても、次にお越しいただくために、映像で紹介することができます。

また、博物館からまち歩きするための散策ルート設定や、古地図の複製展示も行っておりますので、特にボランティアガイドさんには、積極的にこのような設備をご利用いただいて、ガイドをより充実させていただければと思っております。この前、ボランティアガイドさんが研修に歴史博物館にお越しになりましたが、パノラマ映像やまち歩き映像につきましては大変好評でありまして、観光客の皆さんのご案内に大いに役立つとおっしゃっていただいたところであります。

なお、無料ゾーンにトイレ、多目的トイレ、授乳室を設けております。トイレはウォッシュレット、擬音装置付き除菌クリーナーなどの非常に衛生的なものを設置しております。この付近には、比較的衛生的な公衆トイレがあまりなく、また、多目的トイレ、授乳室もない場所がございますので、散策の途中にこれらのご利用だけでも結構でございますので、博物館にご来館いただけたらというふうに考えているところであります。以上、少し長くなりましたが、博物館の紹介、取組について説明させていただきました。

中尾友昭(市長)

この歴史博物館の開館にあわせて、美術館も企画の予定があるということですが、説明をお願いします。

中村美幸(美術館副館長)

美術館でございます。市立美術館では、歴史博物館の開館にあわせ、11月17日から翌平成29年1月22日までの所蔵品展の特集展示といたしまして、「度会文流斎 謎のカリスマ御用絵師」という展示を行います。度会文流斎は、江戸中期に活躍した長府藩の御用絵師の1人ですが、卓越した技能を持ち、同時代の女流俳人田上菊舎との交流も知られておりますけれども、まだ詳細は知られていない作家です。今回、美術館の所蔵品のほか、歴史博物館からも作品をお借りし、展示内容の充実を図ることで、地元ゆかりの作家の活動をともに探っていきたいと考えております。歴史博物館の収蔵品の紹介にも寄与できるかと思っております。

また、11月19日、20日に開催される長府地区のイベント「彩りの城下町長府」にあわせ、歴史博物館が夜間開館することから、美術館も夜9時までの夜間開館を行う予定でございます。

中尾友昭(市長)

この歴史博物館のオープンは、長府の観光においても画期的な出来事になると思います。この開館にあわせて、観光行政面からの取組はどのように準備をしていますか。観光交流部、お願いします。

吉川英俊(観光交流部長)

観光交流部の吉川でございます。どうぞよろしくお願いたします。先ほど、町田館長から熱い想いが伝わってきました。我々もこれを絶好の機会と捉えておまして、観光行政にもぜひ役立てていきたいと思っております。今回の歴史博物館のオープンにあわせましての取組でございますが、何点かご紹介をさせていただきたいと思っております。

まず1点目でございます。先ほど町田館長からもございましたが、11月18日開館の翌日から開始をいたします「彩りの城下町長府・秋」が開催されます。これは、キャンドル約500個を設置いたしまして、紅葉の最盛期を迎えた長府の街並みがライトアップをされるということになります。美しい紅葉と土堀の街並みを見ながら、夜の城下町を楽しんでいただきたいと思います。パンフレットを今日持ってきておりますが、これを見ていただければと思います。そして同時開催ということで、門司港とのいわゆるキャンドルナイトということも連携をして行っているところでございます。

それから、2点目といたしましては、また資料がお手元にあるかと思っております。「イベントしものせき」というのがございます。紅葉のシーズン到来ということですので。10～12月号でございます。例年実施をしております長府毛利邸で、毎年10月、11月、甲冑・官女の衣装の着付体験を実施しております。この度は新たにこちらに書いてございますように、カップル限定ということで、坂本竜馬とおりょう、それから高杉晋作とおうのということでカップルで着付けを行っていただきまして、その衣装のまま長府城下町のまち歩きを楽しんでいただくという企画でございます。幕末維新150年にふさわしい事業として取り組んでいきたいと思っております。ただ、期限が11月27日までということで、オープンからあまり時間がないのが少し残念かなと思っております。

それから3点目でございます。これも先ほど館長からお話ございました、下関観光ガイドによります無料ガイドを10月から2か月間実施をいたします。これにつきましては、功山寺にも観光ガイドさんに常駐をしていただきまして、長府の魅力を発信していきたいと考えております。

それから次に新しいイベントといたしまして、お手元にお配りしております「下関幕末維新探訪絵図」というのがございます。この裏面の方に長府の古地図もございます。「長州変革の狼煙がここに上がる」と記載をしておりますが、この古地図を使いまして、ウォーキングをしていただきます。タイムスリップした気分近年大変人気になっております。古地図を使ってまち歩きをするということで、殿様気分が城下町を散策ということになろうかと思っております。

それから、5点目でございます。この度、幕末維新山口デスティネーションキャンペーンというのが開催されます。これは来年の平成29年が本番でございますが、今年10月からプレキャンペーンということで、すでにスタートいたしております。このデスティネーションキャンペ

ーンでございますが、JR 6社と山口県、県内の自治体、民間の観光業者が協力いたしまして山口県を観光の目的地とする商品を全国に販売をするということでございます。この中にすでに幕末維新世界遺産とおもてなしの国山口Aコースというのがございまして、そこにすでに城下町長府の散策がスケジュールに入っております。これは資料がまだできておりませんのでありませんが、これが来週全国からエージェントが来られまして、全国宣伝販売促進会議が開催されるところでございます。これにあわせまして、歴史博物館のオープンにつきましても促進会議で宣伝をしていきたいと思っております。

それから、もう1点ございます。実は、これは関門連携による事業でございまして、地方創生推進交付金を使った事業でございます。これはすでに6月議会で補正をあげまして、国の認可もいただいたところでございます。関門海峡都市、関門まちびらき形成事業ということで行います。多言語化のアプリを作りまして、そのアプリをダウンロードしていただくと、自動的に長府の観光地に行くとスマホが鳴り出すような仕組みになっております。これにつきましては、お手元にお配りしております関門海峡・浪漫マップというのがあるかと思えます。この裏面に下関長府地区ということで地図がありまして、ここに載っている施設については、全て北九州との連携事業でございまして多言語化対応アプリをいれる予定としていただいております。この中には当然のことながら、今、他の方でも大変人気を博しておりますAR機能というものがございまして。例えば長府地区に行くとAR機能を起動させますと、常に隣に高杉晋作がいる写真がとれるという大変画期的な手法で観光客を呼ぼうということでございます。少し長くなりましたが、取組としては以上です。よろしく願いいたします。

中尾友昭(市長)

今担当から取組の説明がありました。教育委員の皆さん、何かご質問、またご意見等がありましたらお願いいたします。藤井委員。

藤井悦子(教育委員)

長府地区での観光は、主に歩いて散策する方が多いと思えます。他の観光地と比較すると、座って休憩できるベンチ等の設置が少ないと感じました。これから歴史博物館が開館すれば、より多くの方が利用すると考えられるので、観光客にとって優しい場所になるような配慮が必要ではないでしょうか。

吉川英俊(観光交流部長)

確かに長府地区というのは歩いて散策をするということがメインでございまして。そういう面では、観光会館から歩いてあがるということが普通だろうと思えます。その中で体力に合った形のコースも色々設定をしているところでございます。

今委員さんがおっしゃられるように、ベンチの整備も色々な面でのおもてなしという一つでもあろうかと思えますので、これはまた地元と協議をしながら進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

藤井悦子(教育委員)

よろしく願いいたします。

中尾友昭(市長)

この長府地区につきましては、歴史博物館もできますし、美術館もあります。教育施設、それからプラス観光施設もあるということで、この取組が下関の観光行政のモデル地区になるように、しっかり頑張っていきたいと思えます。担当部局の皆さん引き続きよろしく願いいたします。

【協議・調整事項】

住民自治によるまちづくりの促進について

中尾友昭(市長)

それでは、続いて最後の協議になります、「住民自治によるまちづくりの促進について～まちづくり協議会とコミュニティ・スクールとの連携について～」ということで、これについては5月に開催いたしました第1回目の総合教育会議で関係者の方々にお集まりいただき、意見交換を行いました。事務局から今後の連携について、報告をまず求めたいと思います。川上部長よろしくお願ひします。

川上勝(まちづくり推進部長)

それではご報告いたします。前回5月27日に開催されました、第1回総合教育会議におきまして、協議事項としてまちづくり協議会とコミュニティ・スクールとの連携ということで報告させていただいておりますが、その時点ではまちづくり協議会の設立地区でありますけど、市内17地区のうち12地区でございました。現在の状況について、資料を配布しておりますのでこちらをご覧ください。

6月以降に立ち上がった地区についてご説明をいたしますと、まず4番の山の田地区が6月、5番の彦島地区が7月に、それから3番の向洋地区が8月に、それから11番の川中地区が9月に立ち上がりまして、現時点では16地区でまちづくり協議会が設立されており、活動に取り組んでいるところでございます。なお、9番の勝山地区におきましても、12月には立ち上がるということで、地域の方々毎週のように協議を重ねているところですので、年内には17地区すべてにおいてまちづくり協議会が設置されることとなります。

続いて、資料の裏側をご覧ください。組織体制等についてご説明をさせていただきます。2.まちづくり協議会の活動拠点の一覧、事務所の場所についてですが、現在、公民館に事務所を設置している地区は7地区でございます。それから小学校に設置している地区は3地区でございまして、生涯学習センターに設置しているのは2地区、その他の施設には4地区ということになっております。次に、3.まちづくり協議会の組織規模についてご説明いたします。16の協議会における地区としての平均数値ですけど、構成団体数が45団体ございまして、顧問の人数が市議会議員を中心とということになっておりますが2.4人、それから代議員数が6.9人、うち公募員数が9人となっております。部会の設置数についてですが、5部会とこのようになっております。このような組織形態でまちづくり活動に現在取り組んでいただいているところでございます。

続きまして、本日の議題でありますコミュニティ・スクールとまちづくり協議会との連携について、ご報告いたします。資料の横長のものをご覧ください。

まず、図の左側の学校運営協議会、コミュニティ・スクールですけど、それ自体が1つの組織として活動しているところでございますが、そしてイラストの右側にありますまちづくり協議会の組織形態におきましては、コミュニティ・スクールを含めた地域の様々な活動団体がその組織の構成員となり、部会に分かれて活動をしているところです。このような相関関係のなかで、それぞれの問題解決に向けまして、学校側からのアプローチ、それから地域からのアプローチができる連携と協働の関係が出来上がりつつあるところです。

また、このような関係を目指しているものでもございます。ちなみに、現在設立された16地区のまちづくり協議会のうち、コミュニティ・スクールの参画状況、構成団体になっていることについてご報告いたしますと、16地区のうち10地区におきまして構成団体となっているところでございます。ただし、学校数で見ますと、小・中学校72校のうち22校、約30%の参画率となっております。この点からしますと、今後多くのコミュニティ・スクールがまちづくり協議会へ参画する取組を活発にすることが課題ではないかなと感じているところでございます。今後まちづくり協議会の取組を進めるうえでは、人材発掘、人材育成が急務であることから、その課題解決策の1つといたしましては、若い人材がいますコミュニティ・スクールとの連携が大変重要であると考えております。そのことで次代を担う子供たちの健全育成が進み、地域の活性化につながるものと考えております。

最近のまちづくり推進部の取組をご紹介しますと、まず各地区にまちづくり協議会が設置され、活動が進み始めたところから、各地区のまちづくり協議会の横のつながりを深めるためのネット

ワーク化を進めるため、このたび去る10月4日に各地区から会長を含む2人の方に出席していただきまして、17地区より合計34人の方々に集まっていただきまして、平成28年度まちづくり協議会ネットワーク会議と題しまして、市長や関係部長との、もちろんこちらの石津教育部長にも参加していただきましたけど、意見交換や意見発表などを実施したところでございます。今後のことですが、来年度から年2回の開催を計画したいと考えております。全地区におきまして、まちづくり協議会とコミュニティ・スクールとの連携協議の理解・周知について努めてまいりたいと考えております。

中尾友昭(市長)

まちづくり推進部長から報告がありました。この件についてご意見、またご質問等がありましたらお願いいたします。林委員。

林俊作(教育長職務代理者)

なかなか厳しい中で予算を各地区につけていただいていると聞いたのですが、その辺の詳細をご説明いただければと思います。

川上勝(まちづくり推進部長)

現在補助金というような形で交付しているところでございます。各地区への補助金交付額は1地区あたり、平均でございますけれど、300万円でございます。

内訳といたしましては2種類の目的別の補助金としておりまして、1つは協議会運営のための運営補助金ということでございます。それともう1つは、各部会での活動のための活動支援補助金ということで2本立てとしております。運営補助金は協議会運営を進めていくうえの経費でありますので、事務員の賃金、机、椅子、パソコン、プリンタなどの備品等々でございます。また、活動支援補助金につきましては活動が活発に行われますように、研修視察の交通費、あるいは会議のための交通費、そしてコピー、協議写真、PRポスターなどの印刷製本等々の内容になっております。

吉井克也(教育委員)

補助金のお話もありましたけれども、私はこの資料にもありますが、東部5地区に属しております。5つの連合会がありまして、そのうちの1つが吉田地区であります。それぞれが皆違った課題も抱えておりまして、共通の課題については5地区でしっかりと取り組みながらやっていこうということで、今前に向いて動いておりますけれども、独自の課題については各自治会が独自に取り組まざるを得ないという現実があります。

吉田の場合は急速な人口減少、少子高齢化がどこよりも進んでいる。他の地域は人口が増えているか、現状維持ということで違います。5地区の方々にお願いをしようとしてもなかなか吉田の課題については取り組んでいただけない。これは当たり前のことです。だから単独でやろうということで、吉田地区まちづくり協議会というものを立ち上げました。先般、昔やっていた市をやろうということでなんとか吉田のまちどおりで、盛大に市を開催することができました。まちづくり推進部の方から、ボランティアとして何人もの方にもおいでをいただいて大変感謝をしています。

さらにもう1つは空き家探しをやろうと。もう皆ととっても数人ですが、手弁当で毎日駆けずり回っております。どこからも予算は出ませんので、全て自前で存続をかけてやっているわけで、そういう状況も地域によってありますので、今後は今あるまちづくり協議会とその下部機関のような形でのまちづくり協議会、それがうまくリンクをして、痒いところにしっかりと手が届く、そういうまちづくりを推進していかなければいけないなと思っております。その辺でまた考えていただきたいと強く願っております。この場をお借りしてお願い申し上げます。

川上勝(まちづくり推進部長)

せっかくの機会ですのでご報告させていただきます。実は他地区では、実例を申し上げますと

吉見地区でございますけれど、やはりあそこは地域の特性がありまして、1つが吉母、あるいは離島がございますので単独でできております。そういったことから、今後は1年間を通した活動が始まったのは今年度でございますので、来年度におきまして、先ほどご説明しましたけど、市長等との意見交換のネットワーク会議におきまして、各地区の皆さんの事例発表などを行うことによって、そういった事を他の地区にも、単純に言いますと東部5地区の方にも知っていただければ、吉見地区でも独立してやっているんだと、そういった事を気づかれて、また新たな考えができていくのではないかなと期待をしているところでございます。

そういった事と、あと、逆に豊北地区におきましては7地区で分かれておりました。分かれておりましたけど、あまりにも豊北地区は広いということで、今年度におきましては4部会、他の地区と同じような形で安全防災部会とか教育部会のような形になります。それまでは地区名を冠にとった地区部会というような形であったりとか、多種多様な取り組み方がございますので、そういったことを含めまして、今言われたようなご意見が、さらに今後につながるよう到来年度におきましてはもっと皆さんの活動が相互にクロスするように、事例発表等ができるようにして、そして自ら考える活動団体ですので、そういった情報を提供してまいりたいと考えております。

中尾友昭(市長)

この住民自治のまちづくりですが、本市で最大のソフト事業ということで取り組んでおります。吉井委員が言われたような、例えば地区の部会というものもありますし、活動部会も当然あります。17地区、あと残り1地区ですが、これはもうできますので、いよいよ全て立ち上がったということで、予算も今300万円ですが、来年に向けては今また財政とも増額の方で検討を始めています。税金の一部を地域で直接に使い道を決めていただくという壮大な事業がいよいよ始まります。

コミュニティ・スクールはその同じ流れを汲んで先に出発しています。今度はそのまちづくり協議会の予算もコミュニティ・スクールで少しは使えるように、またそういう連携ができればいいと思います。その中の一つのモデルケースが各地区の活動はするとして、さっき言った学校図書館ですね。この学校図書館の学校司書の数を増やすとなかなか財政的には難しいです。他を削って出すというならまたそれはそれでいいんですけど、今の状態で増やせというのはなかなか難しいです。ただ、その学校司書の先生方に地域の方にある程度指導してもらって、ある程度のレベルを上げて、これを繰り返すことによって、地域の方が学校図書館の運営に関わっていただける。そのことがまた地域の方の生きがいと言いますか、そういうことにつながればいい循環だろうと思います。そういった点で、学校とコミュニティ・スクールとまちづくり協議会が連携をもっと強化させていただきたいと思います。各部局の皆さんしっかり頑張ってください。これについてはまた今後も、定期的に取り組を深めていく必要があると思います。まちづくり推進部と教育委員会、よろしくをお願いします。

【その他】

中尾友昭(市長)

それではその他ということで、教育長。

波佐間清(教育長)

今年の10月の後半であります。教育委員の皆さんによりまず先進地視察を計画しております。2年前が金沢市と福井市。昨年が群馬県の前橋市に参りました。今年は長野市と上田市を訪問しようと思っております。上田市につきましては、三吉慎蔵、それから愛染かつら等のゆかりの地でもあります。

中尾友昭(市長)

ただいま視察について報告がありました。下関と信州、維新の歴史を共有している部分がありまして、数年前から交流もございます。その交流について、総合政策部長をお願いします。

森本裕之(総合政策部長)

総合政策部長の森本でございます。長野県上田市との交流についてご紹介させていただきます。上田市は人口約155,000人で、長野県においては長野市、それから松本市に次ぐ大きな規模の都市でございます。今回、教育委員の皆様が上田市をご視察になるということでございますので、この交流の実績についてちょっとご紹介させていただきます。

今般この交流が頻繁となりましたのは、平成18年6月、ちょうど10年前でございますけれども、上田市の御一行の皆様が本市を訪問して下さったことにはじまっております。

訪問いただきました背景を少し紐解きますと、現在、上田市にございます上田東高校、この前身が小県郡立蚕業学校と申します。この蚕業というのは「蚕」の蚕業でございます。この初代校長が、ただいま教育長からご紹介がございました、長府藩士の三吉慎蔵の子、三吉米熊でございました。平成18年、本市にご訪問いただきました上田市の御一行の中には三吉慎蔵の曾孫、三吉治敬氏もいらっしゃったところでございます。

ご案内のとおり、本市は養蚕発祥の地といたしまして、我が国の養蚕の起点となったといわれておるところでございます。こうした三吉米熊、また養蚕といった御縁から、本市において上田市・下関市の歴史交流シンポジウム、また上田市の物産展も開催いたしました。また、上田市におけるシルクサミットにも参加をするなど、相互訪問を重ねておるところでございます。

平成20年には上田市長さんに下関に来ていただきまして、ゆかりのしだれ桑の寄贈をいただきまして、長府宮の内緑地、また忌宮神社、功山寺の3か所に12本の植樹を行っているところでございます。また、平成22年10月には中尾市長と、その時は随行で私も上田市を訪問させていただいております。その際にご案内いただきました、ただいま教育長からもご紹介がございました、別所温泉の北向観音の境内にございますかつらの木です。これが、田中絹代さん主演の映画「愛染かつら」で有名となりました縁結びの霊木でございます。今は恋愛成就のパワースポットとして、大変な人気の場所となっております。こうした田中絹代さんの御縁もございまして、上田市の方から愛染かつらの苗木の寄贈をいただきまして、田中絹代文化館と園芸センターの方に植樹をいたしております。

この他、興味深い点といたしましては、高杉晋作が試撃行と名付けた剣と文学の修行を目的とした北関東、また北陸の旅をしておりますけれども、これについて上田市に行きまして、上田の城下で上田藩士と実際に剣術試合を行ったり、談論をしておるといようなところも残っておるところでございます。こうした御縁もございまして、その後も長府の万骨塔慰霊祭への参加や三吉慎蔵の遺品の寄託をいただくなど、上田市との交流につきましてはますます活発に行われておりました。この度の教育委員の皆様と同市の視察は、両市にとりまして大変有意義なものというふうに拝察をいたしておるところでございます。上田市の市長さんは、この交流がはじまって以来の市長さんでございます。母袋創一さんという市長さんでございます。母親の「母」に「袋」と書く母袋市長さんでございます。中尾市長も私も訪問した時に、大変歓迎をさせていただいておりますので、委員の皆様、お会いになることがございましたらよろしくお伝えいただければと思っております。

大変雑多な紹介でございますけれども、上田市との交流について紹介をさせていただきました。

中尾友昭(市長)

それでは、教育委員の皆さん先進地視察、よろしく申し上げます。

中尾友昭(市長)

それでは教育長、また教育委員の皆さん、ありがとうございました。

これからも市長と教育委員会が手を携えて、下関の教育の発展に努めてまいりたいと思っております。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。それでは事務局、申し上げます。

【閉会の宣告】

石津幸紀生(教育部長)

なお、信州上田は就学前と小学校の連携が非常に盛んにやっているというということで、本市でも就学前と小学校との連携、これを学んでくることがいいだろうということで、かねてより教育長に申し上げておったところです。

以上をもちまして、平成28年度第2回下関市総合教育会議を終了したいと思います。皆様、大変お疲れ様でございました。ありがとうございました。

(ありがとうございました)